月刊 CDCガイドライン ニュース

CDCガイドラインの最新情報をどこよりも早くお届けします！ 編集長／矢野邦夫

4月号

第一〇〇回 〈アデノウイルス14型による呼吸器感染症〉

2009年4月21日、CDCが週報（MMWR）に「南カリフォルニアにて新型ブタインフルエンザA型（H1N1）が発生した」と報告した。2人の子供が感染していたのである。このときは、「また、ブタインフルエンザがヒトに感染したんだ！」と思っただけであった。というのは、それまでときどき、ブタインフルエンザがヒトに感染したという報告があったからである。しかし、その後このウイルスは新型インフルエンザウイルスとして世界中に広がっていった。

2003年、上気道感染や消化器感染を日常的に引き起こしているコロナウイルスのなかから、新種としてSARSウイルスが発生し、世界に広がっていった。これも記憶に新しい出来事である。このように新型・新種ウイルスには「伝播の始まり」があり、我々はそれらについて敏感でなければならない。先日、CDCのMMWRを読んでいたら、少し不気味な報告があったのでここで紹介したい。

「アデノウイルス14型呼吸器感染症の集団発生（アラスカ州プリンスオブウエールズ島）」（http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5901a2.htm）である。このアデノウイルス変異株も世界中に広がらないことを祈るばかりである。発生地域から帰国した人々において、同様の症状がみられる場合には、アデノウイルス14型感染症を鑑別診断の一つとしなければならない。

2008年9月22日、アラスカ州プリンスオブウエールズ島の医師が、保健所に「成人の肺炎が10件発生し、3人が入院となり、1人が死亡した」と報告した。そして、保健所とCDCは調査を開始し、2008年9月1日～10月27日の集団感染にて46人のアデノウイルス14型感染の症例が同定された（アデノウイルスには血清型が51種あり、14型はそれらの一つである）。この集団感染では、「男性」「アラスカ原住民」「基礎疾患に肺疾患がある」「65歳以上」「現在喫煙している」の人が多く、特に65歳以上であることは入院の危険性を5倍高めた。症状で多くみられたのは咳、息切れ、発熱であった。入院患者11人のうち、3人が集中治療を必要とし、1人が人工呼吸器治療となり、そして1人が死亡した。罹患期間（中央値）は14日（1～41日）である。46人の患者のほとんどが、抗菌薬、気管支拡張剤、コルチコステロイドなどの治療をうけていたが、誰も抗ウイルス剤は投与されていなかった。

アデノウイルスは急性呼吸器感染症、咽頭結膜熱、消化管感染症、出血性膀胱炎を引き起こす。一般にアデノウイルス感染症は軽症であるが、幼児や免疫不全患者では重症化することがある。2003年以前の米国での集団感染ではそのほとんどが軽症であった。しかし、**最近の集団感染では重症例がみられ、致死的な呼吸器疾患となっている。**最近の3件の集団感染で同定されたアデノウイルス14型の遺伝子配列は一致しており、過去の株とは異なっていた。これは悪性度の高い新しい変異株の出現を示唆している。

ウイルス性重症呼吸器感染の症状のある患者やアデノウイルス感染症の患者は個室に入室させるか、同じ感染症を有する患者と同室させることによって、病原体の拡散を防ぐようにする。アデノウイルス感染症の入院患者をケアするときには、医療従事者は標準予防策および飛沫予防策を遵守する必要がある。

プロフィール

やの・くにお
県西部浜松医療センター 副院長 兼 感染症科長
「ねころんで読める CDC ガイドライン（メディカ出版）」等、CDC 関連の編・訳書多数。

●今月の矢野編集長
県西部浜松医療センター感染症科に新しい仲間が加わった．また一人，CDC 中毒患者が発生すること間違いなし！

＊本記事は，病院感染対策の総合専門誌「INFECTION CONTROL」誌（メディカ出版）最新号に掲載予定のものです．速報として web にて掲載しています．

＊本記事の無断引用・転載を禁じます．